

目的

- 「テレビ会議システム」と「遠隔バイタルチェックシステム」を組み合わせ、介護従事者の「移動の負荷」を減らし、利用者に「安心感を与え」、広域分散の地域特性をどの程度補うことができるかを定量的に測る。
- 新型コロナウイルスの現状を踏まえ、体調を数値で把握することが在宅療養している人とそれを支える人に寄与できるか把握する。

背景・課題

- 介護分野における従事者の人手不足
- 遠隔地への移動時間の削減

事業のポイント

バイタル測定 of 機器から得られる生体情報をテレビ電話のシステム内で表示、同じテレビ電話で通話した先で生体情報を確認できるようにすることで、高齢者の見守りや介護、訪問介護や遠隔診療等に役立つ。

期待される効果

- ✓ ICT・IoTを活用することで介護従事者の負担が減少し、長い距離の移動時間等、本来業務以外の時間がなくなる。
- ✓ テレビ会議による対面会話とバイタルデータのエビデンスにより、リアルな往診と変わらない状況が実現する。

推進体制

- KCCSモバイルエンジニアリング 釧路市
- 包括支援センター（釧路市内）
- 訪問介護ステーション（釧路市内）
- 特別養護老人ホーム（釧路市内）

概要

京セラ 研究開発本部 あんしんコミュニケーター

遠隔地の体調管理、見守りが可能なバイタル測定システム



KCME 自治体PF部 しらせあいアプリ

遠隔対面コミュニケーションが可能なタブレットテレビ会議システム



2つのシステムの結合



過疎地においては、病院や訪問介護などのサービスがなくなり、人の介助を必要とする高齢者が住み続けることが困難になっている。

バイタル測定 of 機器から得られる生体情報をテレビ電話のシステム内で表示、同じテレビ電話で通話した先で生体情報を確認することで、医療・介護従事者が過疎地にいる利用者の体調管理を行うことが可能になる。



担当者より コロナ禍でお忙しい中、実証実験にご協力いただいた皆様には深く感謝いたします。引き続き地域の課題解決に向けて邁進してまいります。

お問い合わせ KCCSモバイルエンジニアリング株式会社
事業戦略室 上野 大藤 (03-3455-4110)